宮代町ゼロカーボン推進協議会　第１回全体会議会議録	
日時	2024 年 10 月 3 日（木）　14：55～16：15
場所	宮代町立図書館　ホール
出席者	協議会委員：新井会長（宮代町）、坂本副会長（埼玉りそな銀行）、 千葉委員（新しい村）、鈴木委員・南委員（鈴木工務店）、 白石委員（東武レジャー企画）、 片岡委員・増田委員（中村建設）、原委員（日本工業大学）、 陰山委員・鈴木委員（無印良品） アドバイザー：雨宮教授 環境省：石原専門官、高橋専門員 事務局（町）：大場課長、小林副課長、濱田主査、佐藤主任 委託業者：株式会社エスプール　加藤　様、相楽　様

内容
【議　題】 （１）宮代町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定方針について （２）基礎調査結果の報告　※参考資料「アンケート調査結果」 （３）部会について 【配付資料】 ・ 基調講演資料「脱炭素に向けた国の動向と自治体・企業の役割について」（当日資料１） ・ 部会活動論点整理シート（当日資料２） ・ 宮代町ゼロカーボン推進協議会 会議の公開（傍聴）の意向確認書（当日資料３） ・ 宮代町ゼロカーボン推進協議会規約・会員名簿（資料１） ・ 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定方針（資料２） ・ 基礎調査結果（資料３） ・ 地球温暖化に関するアンケート調査結果（資料４） ・ 部会運営について（資料５） ・ 第２回全体会議　出欠確認書（資料６） 【議　事】 ●議題（１）宮代町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定方針について （資料２に係る説明） 雨宮教授：　第５章と第６章が最も重要と考える。CO_2削減目標の設定について、 2030 年度に 2013 年度比 46%削減だと国と同じ目標となるため新しみが

ない。50%削減等に挑戦している周辺自治体もある。本協議会や計画においても、皆さんの知恵も借りながら、チャレンジングな目標を掲げるとともに、実現可能な裏付けがある状態を目指したい。

6章の施策については、町特有の長所を強調するような計画になれば良い。

●議題（２）基礎調査結果及びアンケート調査結果の報告

（資料３、４に係る説明）

雨宮教授： 資料３の８ページにある「住宅賃貸業」だが、帰属家賃（自宅に住んでいる人が家賃を払ったと仮定した数値）によって、数値が高めに出ていることは注意してほしい。

また、「町外に通勤し夜になると帰ってくる」という昼夜人口の差が大きいという町の特徴もどこかに追記してほしい。

また、宮代町において非常に大きな産業はなく、サービス業は多い。町の特徴を知るため、家庭や自動車によるエネルギー使用量を分かったほうが良い。

アンケート結果について、資料４から分かるように、太陽光や太陽熱はまだまだ普及させていく余地がある。

また、町に行ってほしい取組として「補助金等支援制度の充実」との回答が多いが、「補助金支援があればやる」という意識を変えていきたいと感じる。気持ちは分かるが補助金を出すのも簡単ではないので、まずは自分たちの事業や生活の中で工夫していってほしい。

14ページについて、「自分たちのCO_2排出量を把握していない」という回答が多いが、自分たちのCO_2排出量を把握していないと、削減のための実践や目標設定ができない。行政も省エネ診断のようなものを充実させどのような事業者でも相談できるようにしておいてほしい。

15ページについて、「温暖化防止や環境課題解決に貢献したいから」という回答が多かったという結果から事業者の意識の高さに力づけられた。

また、18ページの設備導入において「長期的な経済的メリット」を優先する回答が多いことについて、意外だが良い傾向だと感じた。

新井会長： 町民は都心に通っている人ばかりではなく、近年は周辺に通勤しており、電車を使わず車を使っているという人も多い。人口増加していた時期とは変わってきていると思う。

●議題（３）部会について

（資料５に係る説明）

事務局： 資料５は現時点での提案なので、これをたたき台として、後日改めて部会の進め方についてご相談できる場を作らせていただく。

（当日資料２に係る説明）

事務局： 論点の一例として、本シートにまとめさせていただいた。

（当日資料２の裏面をもとに、ディスカッションのデモンストレーション）

事務局： 事業者ヒアリングで伺ったご意見の一部を当日資料２の裏面にまとめた。今後に向けての練習として、例えば窓ガラスの断熱化について知見やご意見のある方がいらっしゃれば、ご発言いただけないか。

南委員： リクシルさんの内窓をつけると補助金が出るのだが、その点を当社でもお客さんに周知している。リピーターもいる。

事務局： 町役場のように、個人ではなく事業所レベルの大きな窓でもできることはあるか。

南委員： メーカーの製作範囲内であればできるかと。規格ではないが、内側に空気層を設けてガラスを入れるだけで断熱効果が出てくる。

事務局： 補助金は出るのか。

南委員： メーカーのほうで性能の証明書を出さなければいけない。証明書がないと補助金は難しい。フィルムを貼るだけでも効果はあるが、こちらも証明書がなければいけない。

片岡委員： 遮熱の塗装という方法もある。どこまで効果が出るかは庁舎となると施工範囲が広いため効果は分からない。保育園で施工した経験はある。

事務局： 一般家庭も含めて実践していくにあたり、補助に関してだけでなく、実践することによってどれだけ効果があったかを発信していくことが大事だと思っている。情報発信について何かご提案はあるか。

委託業者： リピーターの話を聞き、効果を実感したからリピートしたということではと考えた。

事務局： 個人の経験で恐縮だが、自宅で窓ガラスの断熱加工をしていて、外の音が入りづらくなり、暖房が効きやすくなったという感覚がある。こういった実感を伴った情報を発信できると取り組む方を増やせるかと思っている。事業所レベルの大きな窓の断熱ついて、何か情報をお持ちか。

石原専門官： 業務用建築物の改修に関しては、本日紹介した中に補助事業として活用できる「業務用建築物の脱炭素改修加速化事業」がある。情報発信については、上尾市さんに「さいたま断熱改修会議」という組織があり、小学校における断熱の事例を体験するといった情報発信しているという話を聞いている。

事務局： 今回のようにテーマを設定し、部会の場では参加者間でディスカッションをしていきたい。全体会議とは別の場で行いたいと考えている。事務局でもう少し整理させていただいた上で、部会の進め方についてまたご相談させていただければと思う。

雨宮教授：　太陽光に関しては、大学で PPA に着手する予定なので、支援していければと。断熱については、効果をデータとして示すという点でも協力できるかもしれない。

●事務連絡

事務局：　次回全体会議について、資料 6 の通り、11 月 12 日か 19 日を候補としている。10 月 11 日までに出欠についてご回答いただきたい。

今後の全体会議開催日程について、第 2 回は 11 月、第 3 回は 12 月下旬から 1 月上旬を予定している。

協議会の公開について、当日資料 3 をご覧いただき 10 月 11 日までにご回答いただきたい。

本日配布したカラーのチラシで、企業向けの脱炭素についてのセミナーをご紹介している。ご興味があればご参加いただければと思う。

●閉会

坂本副会長：　本日は皆様お疲れ様でした。次回 11 月の協議会でも、よろしくお願いします。

以上